

高旗健次・ドミトリー フェイギン 新見フェイギン浩子 室内楽の午後

VOL.2

Kenji Takahata, Dmitry Feygin, Hiroko Niimi-Feygin Kammermusikonzert VOL.2

2013年 10月13日(日) 開演15:00
(開場14:30)

広島県民文化センターふくやま

〒720-8519 広島県福山市東桜町1-21 TEL:084-921-9200



Program

- ★ S. ラフマニノフ作曲：トリオ ト短調 S. Rachmaninoff : Trio g-moll (1892)
- ★ M. グリンカ：悲愴トリオ ニ短調 M. Glinka: Trio Pathétique d-moll (1827)
- ★ A. アレンスキー：トリオ ニ短調 作品32 A.: Trio d-moll Op.32

入場料：一般 /2500円 学生 /1500円 (全席自由席) ■ 8月1日(木)より販売開始

チケット取り扱い：広島県民文化センターふくやま 利用受付 (Tel:084-921-9200)

主催：広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座弦楽研究室
後援：広島大学大学院教育学研究科、広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学講座、広島大学尚音会、中国新聞社
お問い合わせ：リサイタル実行委員会 (Tel:082-424-6831)



●福山駅から徒歩約4分

●当センター専用の駐車場はありません。近隣の駐車場(有料)をご利用下さい。

高旗健次・ドミトリー フェイギン 新見フェイギン浩子 室内楽の午後

VOL.2



violin★ 高旗 健次

Kenji Takahata

広島大学卒業後、同大学大学院博士課程前期修了。ドイツ国立カールスルーエ音楽大学大学院芸術家養成課程、及び同大学大学院国家演奏家試験課程ソリスト科修了。ドイツ国家演奏家資格 (Konzert-Examen) を取得。第22回～第25回山陽学生音楽コンクール4年連続第1位。第31回北九州芸術祭に出演。文科省長期在外派遣研究員、および広島大学大学院教育学研究科海外派遣研修員(いずれもドイツ)。元ドイツ・バーデン州立歌劇場オーケストラ嘱託団員(芸術監督:大野和士 時代)。ドイツでのリサイタルでは「楽曲における細部へのこだわりと内容豊かな全体構成力」、またオーケストラとの共演では「表現力の非常に高い巨匠的名演奏」との評価を得る(いずれもドイツ・バーデン新報紙)。ドイツ在住中には、ドイツ国内はもとより、クロアチア(ザグレブ)やボスニア・ヘルツェゴビナ(サラエボ)でも演奏を行う。帰国後は定期的にソロリサイタルを開催のほか、ドイツ国立カールスルーエ音楽大学教授のN. エアリッヒ氏とのジョイントリサイタル、オーケストラとの共演、ゲストコンサートマスターとして演奏会に出演、「ちかしアンサンブル」のメンバーとして演奏会に出演、またグランドコンサートメンバー(トッパンホール・東京)として演奏会に出演、青森、鹿児島などでも演奏を行うなど、全国各地で意欲的な演奏活動を行う。現在、広島大学准教授(大学院教育学研究科)。岡山フィルハーモニック管弦楽団嘱託団員。ヴァイオリンを市原利彦、小島秀夫、故田中千香士、N. エアリッヒの各氏に、室内楽をW.J. ヤーン氏に師事。



cello★ ドミトリー フェイギン

Dmitry Feigin

1968年モスクワ生まれ。父は有名なチェリスト、ヴァレンティン・フェイギン、母は有名なチェロ教師、ガリーナ・ズーヴァレヴァ。モスクワ音楽院中央附属音楽学校のもとで英才教育を受けた後モスクワ音楽院へ入学、同大学院を卒業。その間父にチェロを、室内楽をショスタコヴィッチ室内楽団のチェロ奏者アレクサンドル・カルチャーギンなどに師事。モスクワ音楽院在学中の1991年、モスクワ院大ホールにて指揮者アレクサンドル・ヴェデルニコフ(現ボリショイ劇場常任)指揮により、チャイコフスキー作曲『ロココのテーマによる変奏曲』でデビュー。これまでにショスタコヴィッチ室内楽コンクール、ヴィヴァ・チェロコンクール(日本)など数々の賞を受賞。ショスタコヴィッチ室内楽コンクールでは、ショスタコヴィッチ夫人より特別にソナタ賞を授与。1986年からロシア国内外で演奏活動をはじめ、NEW-VIKTRING フェスティバルやCARINTHISHER フェスティバル(奥)、カルマール・フェスティバル(仏、主催はロシア人ヴァイオリニスト、スビヴァコフ)、オレグ・カガン・フェスティバル(露、ナタリア・グッドマン主催)、モスクワ11月芸術祭などに出演。1999年、ロシア人指揮者、イリヤ・ムーシンなどと共演。1995年からはモスクワ・コンサート・フィルハーモニー協会のソリストを務め、モスクワ音楽院附属音楽学校で教鞭をとる。2003年来日、現在東京音楽大学教授。2006年からはモスクワフィルハーモニア協会主催による定期演奏会に毎年、チェロとピアノ、デュオ室内楽のシリーズに新見フェイギン浩子(ピアノ)と連続出演。日本とロシアを中心にソロ、室内楽で活動する。また近年では、名古屋フィルハーモニー、仙台フィルハーモニー、読売交響楽団、指揮者は、小林研一郎、広上淳一などと共演する。国内外のチェロ国際コンクールの審査員もつとめている。



piano★ 新見フェイギン 浩子

Hiroko Niimi-Feigin

大阪生まれ。桐朋学園高等音楽学校に入学後、ハンガリー(ブタベスト)、リスト音楽院にてピアノを、ナートル・ジョルジュや、ゾルタン・コチシュなどに師事。1990年から、モスクワ音楽院に研究生として入学。ピアノをドミトリー・パシキーロフ、セルゲイ・ドレンスキー、室内楽を、前モスクワ音楽院院長であったディグラム・アリハーノフ、ヴァレンティン・フェイギンに師事。その間、旧レニングラードで開催されたショスタコヴィッチ室内楽コンクール(デュオで夫であるドミトリー・フェイギン氏と)や、ソロではイタリアのヴィオッチ国際コンクールなどで優勝。1990年から、主にロシア国内で演奏会をはじめ、サンクトペテルブルグオーケストラ、ロストフオーケストラ、サラトフ、マイコップオーケストラなどと共演。モスクワでは、チェリスト、ナタリア・グットマン主催のオレグ・カガンフェスティバルやモスクワ11月芸術祭、プーシキン美術館などのフェスティバルにて1990年からドミトリー・フェイギンと共演。他、ピアノトリオやピアノ五重奏など、モスクワソロイスト室内楽メンバーと共演。2005年より、モスクワ・フィルハーモニア・ソサエティーにて演奏活動を開始。2006年より現在に至るまで、モスクワ国立フィルハーモニア協会主催による定期演奏会に連続出演。2010年3月に催された、同シリーズ演奏会では、モスクワフィルハーモニア協会の批評家たちから大変な好評を博した。2012年まで、くらしき作陽大学非常勤講師。